

塩田町民生委員児童委員協議会だより

つむぐ

第2号

発行 令和2年3月20日
 発行元 塩田町民生委員
 児童委員協議会
 責任者 諸岡 博子
 題字 諸井 愛子

安心して暮らせる地域社会に

〈新体制スタート〉



塩田町民生委員児童委員協議会

会長 諸岡 博子

令和元年12月、民生委員の新委員です。民生委員・児童委員の一斉改選が行われました。嬉野市塩田員2名の総員30名で活動する町民生委員児童委員協議会 行っております。

民生委員・児童委員の基本

- 一、「民生委員法」により厚生労働大臣から委嘱された非常勤、特別職の地方公務員です。給与は支給されません。(民生委員法第10条)
- 一、常に住民の立場に立ち相談相手となり必要な援助や行政など関係機関との「つなぎ役」を行う社会福祉のボランティア団体です。
- 一、住民の「基本的人権および人格の尊重」「守秘義務の徹底」があります。(民生委員法第15条)

身近な相談相手として

委員は住民の身近な相談相手として担当地区で活動しております。「心配ごと、悩みごと」をひとりで抱えることなく安心して相談してもらいたいと思っております。地域で、地区の民生委員・児童委員の存在や活動を理解してもらえたいだろうか?ということもありまして「塩田町民児協だより」つむぐ」第2号の発行となりました。

また、私たち委員は地区での活動に積極的に参加し信頼を深めていこうと思っております。

常に寄り添いながら

私たち民生委員・児童委員の活動基盤は住民との信頼関係です。住民それぞれ生活状況や課題はさまざまですが「誰もが笑顔で安全に安心して暮らせる地域社会」に向けて皆様に寄り添いながら活動して参りたいと思っております。

地域の皆様、委員の活動に対するご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

障がい者やすべての人びとがあたり前に暮らせる社会に向けて

～バリアフリーツアーの先進地 鳥羽市に学ぶ～

11月20日、塩田町民児協16名は三重県鳥羽市におけるバリアフリーツアーの現状を視察。野口あゆみ事務局長の案内で、土産物売り場に設置されたバリアフリー観光情報センターを訪れた後、スライドにて以下のお話を伺いました。(要旨)

「行ける」ところを探すのではなく、「行きたい」ところを開拓していくこと。

バリアフリーツアーとは障がい者を基準にしたバリアフリー観光のこと。障がい者は人によって様々で、各人に対応した基準を「パーソナルバリアフリー基準」と呼び、ここが出発点。

重要なことは、障がい者の「行きたい」という気持ちを大切にすること。

伊勢神宮をバリアフリーの場所にすべきかと聞かれたら「No!」と答える。旅はバリアがあるから楽しいという面もある。

2003年、当地では「どこでもチェア」(無料・乗り捨てOK)を

開始。また、「伊勢おもてなしヘルパー」(有償、写真右同ホームページより)を立ち上げ、参道や階段上げのサポートが出来るようになった。

障がい者も家族も旅を楽しむ

当ツアーの実現により、今まで家族にとっても障がい者に遠慮して行けなかった観光地に行き、旅を楽しめるようになった。ちなみに、平成15年から平成25年にかけて伊勢神宮参拝者数は2.5倍だが、車椅子利用者は6.1倍に増えている。

バリアフリーツアーは当初、行政が唱えたが浸透しなかった。民間事業者が採り入れなかったから。しかし、障がい者の旅行には家族などが同行し「ビジネス」面から見ても大きく、転換が起った。

嬉野市(嬉野温泉)もバリアフリーツアーに積極的に取り組んでおられる先進地である。全国で連携して、進めていきたい。



【主任児童委員】



こもり じょうぜん
成善 じょうぜん
①塩田町全地区
②南下久間
③66-2335



なかしま えみこ
中島 恵美子
①塩田町全地区
②牛坂
③66-4416



にしむら きみこ
西村 貴美子
①中久間
②中久間
③66-2033



やまだ のりこ
山田 則子
①北志田
②北志田
③66-5115

(凡例)
①担当地区
②住所
③TEL

令和元年12月1日付で新しく選出された民生委員・児童委員30名です。今回改選では前期12名だった男性委員が17名に増えました。私たちの活動の基本は地域の皆様の生活状況を把握して、支援が必要な場合は関係機関へ繋ぐことが第一の職務です。地域を見回り家庭を訪問し、種々の相談に応じて、地域の皆様「安心して豊かな暮らしができるように」、様々な人々と協力して健全な地域社会づくりに努めたいと思います。どうぞ、お気軽にお声をかけください。

私たちは、民生委員・児童委員です。お気軽にお声をかけて下さい。



しもむら さよこ
下村 サヨ子
①堤ノ上、中通西
②中通
③66-5398



おおかわち ますみ
大川内 増己
①光武
②光武
③66-5136



しげまつ くにひろ
重松 邦宏
①西山
②西山
③66-3979



にしの なおみ
西野 直美
①南志田
②南志田
③66-2274



いのうえ くみこ
井上 久美子
①北下久間
②北下久間
③66-5440



うえまつ けいしょう
植松 啓彰
①塩吹、鍋野
②塩吹
③66-2516



たなか けんいちろう
田中 謙一郎
①万才、角ノ谷
②万才
③66-4421



よしむら ふちこ
吉村 ふち子
①のぞえ
②のぞえ
③66-5837



はやし あきひこ
林 昭彦
①冬野、牛間田
②牛間田
③66-3565



なかの ひろこ
中野 博子
①大草野辺田、五代、長谷
②五代
③66-2654



いまいづみ たみお
今泉 民夫
①中通東、牛坂
②中通
③66-4676



みずかわ こうくん
水川 光薫
①塩田、原町
②塩田
③66-2429



つじ まさふみ
辻 正文
①南下久間
②南下久間
③66-5065



みずやま せいご
水山 清吾
①町分
②町分
③66-2533



もろおか ひろこ
諸岡 博子
①南上、南下
②南下
③66-4343



こが こうちろう
古賀 耕八郎
①福富、大牟田、真崎、袋
②袋
③66-4305



ふちの みきこ
淵野 美喜子
①谷、熊野
②熊野
③66-4843



すなみ すなお
峰松 直
①布手、下野辺田、本谷
②本谷
③66-3308



いまむら ひでお
今村 秀雄
①五町田第1、2
②五町田第1
③66-4307



みやざき としひろ
宮崎 俊弘
①五町田第3、4、5
②五町田第4
③66-5599



かわはら まこと
川原 真
①宮ノ元、畦川内
②宮ノ元
③66-4895



いで しずえ
井手 シズエ
①南、美野辺田
②美野辺田
③66-3911



おがた しょうこ
尾形 祥子
①鳥越、山口、殿ノ木庭
②鳥越
③66-3675



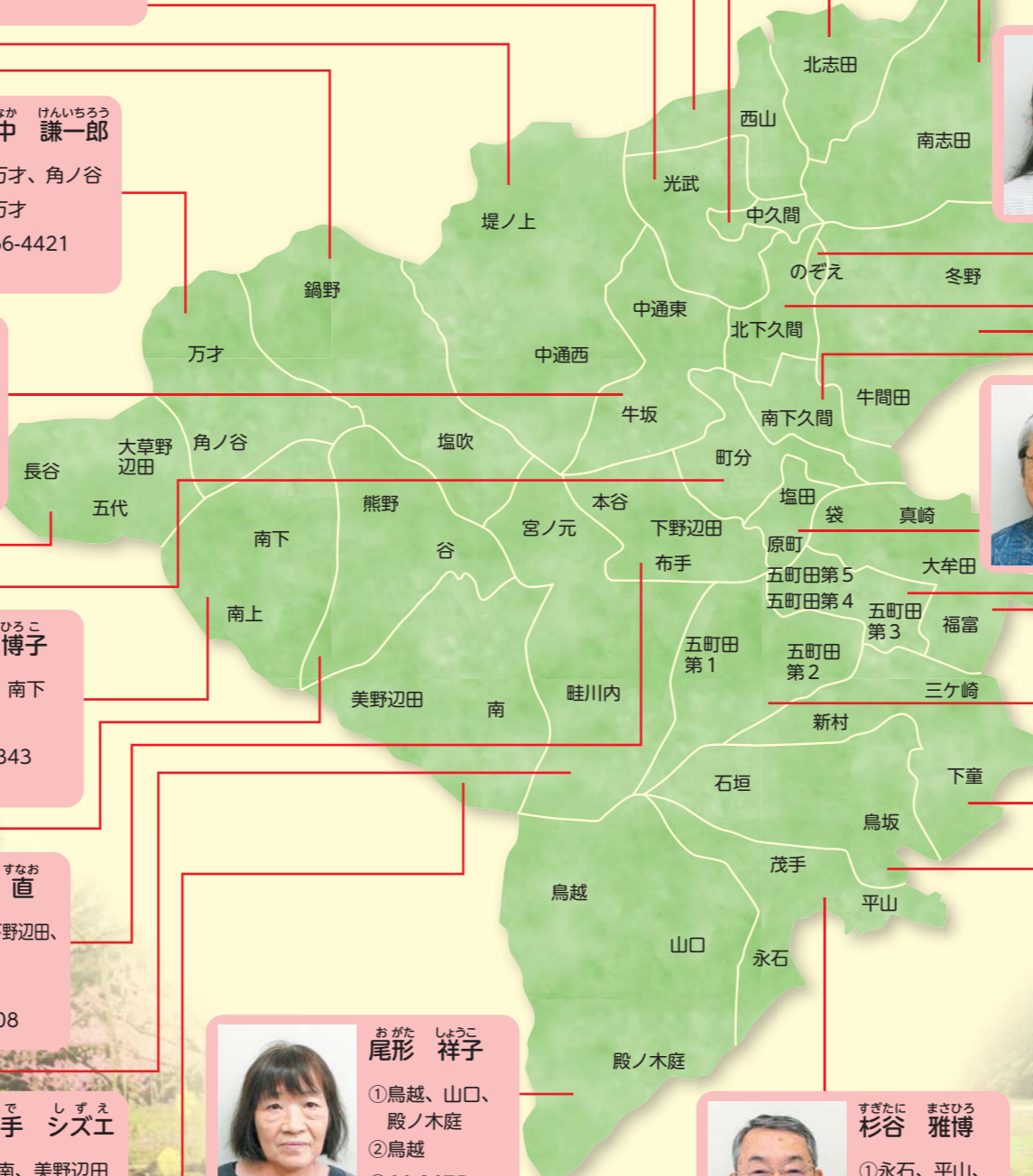
すきたに まさひろ
杉谷 雅博
①永石、平山、茂手
②永石
③66-4682



いしい としはる
石井 俊治
①鳥坂、石垣
②石垣
③66-3935



よしだ かおる
吉田 薫
①下童、新村、三ヶ崎
②下童
③66-3441



平成31年度（令和元年度）主な活動

- ・ 登下校の見守り
- ・ 独居高齢者訪問
- ・ 小中学校入学式への参加
- ・ 戦没者追悼式への参加
- ・ 町内保育園訪問
- ・ 「民生委員児童委員の日」
美化活動
- ・ 済昭園との交流
- ・ 社会を明るくする
運動伝達式参加
- ・ 町内小中学校校長および
警察との夏休み対策協議
- ・ 塩田中学校生徒との交流
- ・ 公園の遊具点検
- ・ 放課後児童クラブとの交流
- ・ 地区敬老会へ参加
- ・ 済昭園児童との交流
- ・ 県外視察研修
- ・ たちばな学園収穫祭
への参加
- ・ 準要保護家庭調査
- ・ 各学校との懇談会
- ・ 小中学校卒業式への参加



小中学校入学式への参加



美化活動



塩田中学校生徒との交流



地区敬老会へ出席

だれもが「ヘルプ！」を 発信でき、周りが笑顔で お手伝いする嬉野市に

～バリアフリーツアー研修の感想～

団塊世代が後期高齢者入りする2025年が目前。高齢化は様々な障がいを伴う。「バリアフリーツアー」は障がい者が旅を楽しむことを実現するもので、超高齢社会を先取りしたものと言える。

「ノーマライゼーション」(B. ミケルソン氏)という言葉がある。これは「障がい者やすべての人々が、人生のあらゆる場面に於いて幸せに暮らせる社会にする」という積極的な意味を持つ。日本では、障がい者は可哀そうな存在として見られ、家族の介護問題として捉える傾向がある。北欧では「人間と環境の問題」であるとして、環境を改善していく。こういう文化土壌を嬉野市でも創り上げることが必要だと思った。高齢者も障がい者も、子育て中の夫婦も、子どもだって誰もが「ヘルプ！」を発信し、周囲は笑顔で「お手伝い」する。そんな優しい、温かい嬉野市を目指して取り組みたいと、参加した民生委員・児童委員は思った。

尚、研修に先駆けて、11月の定例会において佐賀県嬉野バリアフリーツアーセンターの小原健史会長より当市の状況について講義を頂き、研修が実りあるものになった。この場を借りて厚く感謝申し上げる。

2019年11月29日

会長 蒲原知愛子
 広報部長 杉谷 雅博
 旅行委員 水山 清吾
 会 計 中島恵美子

宮崎まち子

* 役職は前期体制。関係記事は「出張報告書」を編集部でまとめたものです。

リレー随想(2)

愛犬との散歩

鳥坂・石垣地区担当

石井 俊治

退職後約20年、ほぼ毎日愛犬との散歩をつづけている。歩数はその日の気分次第で五千から一万歩。犬は茶系の豆柴。元気がよく、リードで老いの身をどんと引張ってくれる。老いの身の健康増進の役目を果たしてくれるだけでなく、「犬飼ひて雑用少し増えたれど老いの二人に活気も増しぬ」という効果ももたらしてくれた、と感謝。

また、車通勤の時代には気づきもしなかった自然のへいのちにも遭遇する。例えば、「連れだてる犬の尿の川土手に星の降りたか犬ふぐり咲く」とか「鶴の影を認めて勢む足」……等々。

さらに、犬と歩いていると地域の人たちとの会話も増えた。農作物の出来具合とか住民の噂話とか、他愛もない世間話に得る情報は意外と役立つ事が多い。その他、子供たちの登下校時の状況や、通学路の状況、遊び場の状況、などなど。

そして、現役時代には断り続けてきた区長や生産組合長などの「村役」も、犬との散歩時にこの上なく役立ってくれた。まさに、「オオサマサマ」である。



編集後記

第2号をお届けする。季刊、せめて年2回刊にしたいが先立つものがあると(笑)。

昨年末、改選で30名の内、20名が新委員となった。初回定例会の張りつめた空気。

私が約半世紀ぶりに帰郷して民生委員になったのが4年前。住んでいる集落はともかく、他所は家も人も分らない。当市では個人情報保護を理由に住民名簿は提供されず、足で情報を稼げとまるで刑罰。地域の地図を抱えて、家々を歩いた。

これでは困っている住民の把握、支援はできないと市長宛、名簿提供を求め続けた。今期、実現する運びになったのは嬉しい。

民生委員の選出が困難になっている。広い守備範囲の負担感に委員の高齢化が重なる。新任は65歳未満原則だがそんなことは言っておられない。団塊世代が後期高齢者入りする次回改選の困難が囁かれる。

そして、わが塩田町にも匿名性という都市化が忍び寄っている。近年の医学知見では孤独な人はそうでない人に比べ死亡率が2倍高いという。独りぼっちよりもとより、家族ぼっちもなくしたい。コミュニケーションの基本はコミュニケーションだ。(杉谷)